

緑風園跡地利用 住民無視は許されない

住民の意見を聞き、計画の再検討を 松尾議員がもとめる

昨年の十二月議会で松尾議員は、緑風園跡地利用について質問を行いました。

松尾議員は、一九月市議会が終わった後、十月初めに緑風園跡地の四三%を民間事業者



一般質問中の松尾議員

に売却し、民間の分譲住宅にする利用計画を十月十五日付の広報で事業者募集を行う等の説明が各党派幹事長にあった。「しかし、これまで緑風園跡地利用については住民が利用でき、住民に役立つ場にする。そのため住民の意見を十分反映してほしい」というのが住民の共通の声だった。民間への売却など誰も求めていない。住民の意見を無視したものだ」と指摘しました。



同和行政の全面的な終結を 松尾議員が質問

松尾市会議員は、十二月議会で同和行政について質問しました。

松尾議員は、十一月二日に副市長名で『部落差別解消への取組について』の通知が各部の長宛に出されたことについて質問。この中で、特別対策からの自立について地域住民の努力は事実であるが、三十数年間、『部落解放同盟』の暴力や利権あさり、不公正な同和行政をやめよという市民や議会の意見などにより、行政が見直しせざるを得なかったこと、また、行政が主体性をなくし、不公正

部落問題は 基本的に解決

また、『部落差別が依然として解消されていない』としている点では、①長年の特別対策で地域の住環境は大きく改善。②結婚などの垣根もなくなりつつある。③同和地区内外の交流がすすみ、実態として同和地区がなくなりつつあり、全体として部落問題は基本的に解決に至っている。ことなど明らかにしました。

また、『住民が同和地区関係者を未だに回避する意識がある』とすれば、それは長年の『部落解放同盟』の暴力的糾弾や利権あさり、不公正な同和行政が部落内外の壁をつくる要因となったもので、市民の責任ではない。『解同』や行政による新たな差別づくり、この後遺症を掃除することが求められている」と指摘しました。

議員目録



田中
ひさ子

昨年末には、孫の要望で「マリと子犬の物語」の映画鑑賞をしました。

新潟・中越地震であつた山古志村であつた物語です。人間は、ヘリコプターで救助されましたが、動物は取り残されました。地震の災害で亡くなられた人やその家族の思い、

またその後の生活の大変さ、家族同様の愛犬と人間の思いや様子を捉えていました。涙・涙の感動でした。孫と一緒にいい映画を鑑賞できました。今年も平和な中でいい文化にふれ、学ぶ機会をつくりたいと思つていきます。